

第 1 回堺市子ども読書活動推進計画改定懇話会の概要

開催日時	令和 6 年 7 月 9 日（火） 10:00～11:30
開催場所	堺市三国ヶ丘庁舎 5 階 中会議室
出席者	井脇元太委員、大林千登勢委員、岡崎久美子委員、近藤真理子委員、巽照子委員、田辺昌吾委員、仲村敬委員、森美由紀委員（50 音順） （堺市子ども読書活動推進会議委員）
傍聴者	2 名
案件等	1 開会 2 案件 （1） 座長の選任について （2） 「堺市子ども読書活動推進計画」の改定について ・「堺市子ども読書活動推進計画」をめぐる現状 ・「堺市子ども読書活動推進計画」の振返りについて
資料	第 1 回 堺市子ども読書活動推進計画改定懇話会 次第 【資料 1】堺市子ども読書活動推進計画改定懇話会開催要綱 【資料 2】堺市子ども読書活動推進計画改定懇話会名簿 【資料 3】懇話会スケジュール 【資料 4】堺市子ども読書活動推進計画をめぐる現状 【資料 5】堺市子ども読書活動推進計画の振返りについて 【資料 6】（参考）第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（概要版） 【資料 7】（参考）第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（本編） 【資料 8】（参考）堺市子ども読書活動推進計画（H31 年 2 月）（概要版） 【資料 9】（参考）堺市子ども読書活動推進計画（H31 年 2 月）（本編）
議事要旨	
1 開会 ○ 堺市子ども読書活動推進会議委員長あいさつ ○ 懇話会委員自己紹介 2 案件 （1） 座長の選任について ・委員の互選により森委員が座長に選出 ・座長が近藤委員を副座長に指名 （2） 「堺市子ども読書活動推進計画」の改定について ○ 「堺市子ども読書活動推進計画」をめぐる現状について（資料 4）に関し、子どもと読書の現状	

について各委員の意見要旨

- ・ デジタル化が進み、スマートフォン・タブレット端末の普及により、子どもが得る情報量・種類は激増した。子ども達が、この情報を使いこなしているのかと考える。
- ・ 生成 AI の登場により、偏った情報を知らず知らずのうちに受けとっている。信頼ある情報とはどんなものなのか、アナログ資料の価値の再認識、読書習慣の定着が今の子ども達に与えるメリット等、考えていかなければならないと思う。
- ・ 保護者の意識の高さが、直接的に子どもの読書活動に反映している。保護者への啓発、施設においては、本の購入費の予算化がポイントであると感じている。
- ・ あちこちに本があり、子どもが生活の中で本とふれあえることが理想。
- ・ 出版される児童書に、子どもにおもなったものが目立つ。子どもはそういった本に流れてしまう。
- ・ 不登校の問題は深刻である。
- ・ 不登校の子どもへのケア、障害のある子どもへの対応が必要。
- ・ 就学前の子どもは本が好きだが、小学校の中学年・高学年になると本離れが起こる。読書活動においても幼と小の連携ができないか。
- ・ デジタルの良さもある。就学前から使い方を伝えていくことが重要。
- ・ 読書においても「きっかけ」が大切。
- ・ 自分自身を考えると、読書時間の低減にはスマートフォンの利用が大きく影響している。
- ・ 子どもが学校図書館に魅力を感じない要因の 1 つとして、本の古さがあるのではないか。
- ・ 小学校と比較して、中学校の図書室が小さい印象を受ける。
- ・ 学校図書館の環境は、ここ 10 年くらいで良くなっている。
- ・ 学校図書館で不登校の子どもを受け入れている学校もあるが、そういった子にとって、学校図書館が行かなければならない所になっている場合もある。学校図書館が本当に子どもの居場所になっているのかは疑問。
- ・ 発達障害の特性として、はじまりと終わりがはっきりしている本や、壁で囲まれた図書館は受け入れられやすい。図書館内にパーソナル空間があれば、より利用が楽になる。

○「堺市子ども読書活動推進計画」の振り返りについて（資料 5）に関し、各委員の意見要旨

- ・ 色々なメディアが出てくる中で、子どもの絵本との付き合い方も変わってきているのかもしれない。
- ・ 小さい子ども達には手厚い読書支援があるが、小中学生にも寄り添った読書支援が必要。公共図書館の各区域図書館に専任の児童担当司書が必要であるし、学校図書館においても専任の学校司書が登校時から下校時まで居ること、学校司書と司書教諭の連携が求められる。
- ・ 出会いに最適な時期に働きかけるのは大切。逆に、子どもが大人に構われたくない時期の接し方には悩む。
- ・ 働きかけを止めてしまうのではなく、関わってくれる大人がいて、子どもが自分で距離をとれること

が重要。同じく、本も常に傍にあって、自分の状況によって没入する時期や離れる時期があつていい。

- ・ 子どものためにと大人が頑張りすぎると、子どもが受け身になってしまう。「読まされている」、「読まなあかん」では、めざすべき姿にはならない。
- ・ 中高生や外国人を対象とした読み聞かせ会や語る会等、「答えを求める学び」から、答えを求めない「ねばならない」を外した、時間・空間の提供、本との出会いがあればよいと思う。
- ・ ブックスタート事業は良い。身近な保護者も、配付された絵本は自分では選ばないようなものだが、子どもは気に入っていて楽しんでいると言っている。ぜひ続けてほしい。
- ・ 学校図書館の施設・資料の更新、公共図書館への学習席の整備を望む。
- ・ 図書館の、ティーンズコーナーや英語多読コーナー等の目的別のコーナーは、本を選びやすくして良い。
- ・ 外国籍の子どもの増加を実感している。親たちのことも気になる。図書館において、英語以外の外国語の資料の充実を望む。
- ・ 日本のアニメ・マンガは高く評価されているが、翻訳されたマンガ等は図書館に所蔵がない。子どもが自発的に英語に触れるには良いと思う。
- ・ 不登校・いじめ等の現状を考えると、学校図書館は、子どもにとって楽しい場所、子どもの表現の場となるよう、子どもの声を聴いて整備してほしい。
- ・ 学校図書館には、大人がこう使ってほしいという意図が強く表れているように思う。子どもが、こんな風に使ってみたいと思うしかけや工夫ができる読書環境を整備していければ良いと思う。
- ・ 計画改定にあたり、子ども達の意見を聞くということだが、その際、障害のある子ども達の声も聞いてほしい。
- ・ 大人自身が絵本を楽しんだり、本と親しんだりすることが大切。この観点が次期の計画に入ればよい。

○ その他の意見

- ・ 今回の改定では、懇話会は推進会議（庁内委員会）とは別に参考として意見を聴取する場となっているが、次回改定時には、意見の聴取に留まらず、策定委員会を設置して、市民・学識経験者・行政と一緒に計画を策定する体制をとってほしい。